

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：31201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25461781

研究課題名(和文) 精神保健従事者への遠隔教育モデルを含めた教育システムの構築

研究課題名(英文) Construction of the education system including the remote education model to a mental health practitioner

研究代表者

大塚 耕太郎 (OTSUKA, Kotaro)

岩手医科大学・医学部・講師

研究者番号：00337156

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では地域ケアに携わる医療従事者及び精神保健従事者等の支援者を対象として、精神医学的知識・対応技法に関する構造化された教育プログラムを開発・普及し、効果評価を実証した。

そして、フォーカスグループによる質的評価の検討によりプログラムを修正し、指導者の資格制度を構築し、ITによるプログラム提供や情報共有のシステムを構築した。対象は被災地や職域を含めた日本全体の広げる仕組みの基盤を整備した。

研究成果の概要(英文)：We developed the structured educational program about the psychiatric knowledge, correspondence technique and spread in the supporters such as a healthcare worker engaged in community care and the mental health practitioner in this study and demonstrated an effect evaluation.

We revised a program by the examination of the qualitative evaluation by the focus group in the study group and built the qualification system of the leader and built a system of a program offer and the information sharing by the IT. In the Japanese whole including a stricken area and job level, we got a base of the structure which widened a program ready in this study group.

研究分野：精神医学

キーワード：社会精神医学 地域保健 健康教育 e-learning 遠隔教育 メンタルヘルス・ファーストエイド

1. 研究開始当初の背景

2011年、本邦では精神疾患が5大疾患に位置づけられ、精神保健福祉改革、医療計画策定など、国家的に精神障害へのケア推進の機運が高まっていた。また、東日本大震災発生後の被災地では医療従事者・精神保健福祉従事者の確保や従事者の教育が切実な課題として挙げられていた、さらに、精神障害の最大の不良予後因子である自殺に関しては、いまだ我が国の自殺率は先進諸国でも高い位置にあり国家的な課題である中、2012年には自殺総合対策大綱が見直され、より地域従事者の教育や家族に対する支援などが重く取り扱われることとなったことが背景としてあった。

2. 研究の目的

研究代表者の大塚をはじめとした連携研究者らは、オーストラリアで開発された一般市民や精神保健従事者向けの精神障害者の危機への初期対応法を習得する研修プログラム(mental health first aid: MHFA)を基にした研修プログラムを開発し、我が国での教育効果を実証してきた。特に、臨床研修医に対する教育効果としては、知識、スキル、自信は向上したことを明らかにした。また、このプログラムを基として、内閣府のゲートキーパー養成研修プログラムとしての視覚教材やテキストなどの開発に学術的協力をしてきた。

地域の精神保健従事者や家族が精神疾患に罹患するものへのスティグマを取り除き、対応法・スキルを習得できる構造化された教育プログラムとして、メンタルヘルス・ファーストエイド等が開発されているが、十分に地域で普及され、行き届く体制は未だ十分に整備されていない。

そこで、本研究では、これまでの先行的な取り組みを土台とし、地域の精神保健従事者や家族が、精神疾患に対する正しい知識や危機対応法を身につけるための教育的な構造

化した研修プログラムを提供していくことで、地域において精神疾患に罹患し心理的危機にある際の早期受療や早期対応につながり、精神障害者が地域で安心して生活していく基盤形成を目的とし、研修会参加のような直接的な学習だけでなく、e-ラーニングのようにITを活用した教育プログラムを提供することで広く地域従事者に教育プログラムを提供していく体制の構築を目的とした。

3. 研究の方法

平成25年度：主に医療従事者、精神保健従事者、家族など支援者のニーズに合わせた教育・研修プログラムの開発を行い介入効果の検証を行う。具体的には以下の通りである；1) 医療従事者版、精神保健従事者版、家族版などロールプレイやグループワーク形式の参加型研修プログラムの開発、2) 不調のサインの把握、ハイリスク者の早期発見・早期介入、社会的偏見の除去、精神障害への理解向上などを盛り込んだ研修内容、3) e-ラーニングの方法論の開発、4) 緩和ケア、多職種ソーシャルワーク、5) 被災地における早期介入法習得研修プログラムの開発。

平成26年度：継続して研修会の普及に努め、有効性の検証のため、研修受講者にITを活用した評価システムの開発を行う。また、ファシリテーター養成プログラムを実施し、その効果を検証する。さらに被災地支援の従事者への事前教育としてe-ラーニング教育システムを活用する。

平成27年度：より効果的な研修プログラムの普及のため、ファシリテーターなどのフォローアップ体制を構築していき、効率的な従事者への支援体制を明らかにしていく。また、資格認定制度を取り入れ、地域で研修会を開催・普及していけるような人材養成のための指導者研修会も開催する。指導者養成用の研修プログラムの開発についても、フォーカスグループ会議を重ね精練したものにしていく。また、本教育プログラムの普及プロモーション

ン活動を地域関係機関と連携した研修会やITを活用し行っていく。

4. 研究成果

本研究では、1) マニュアルの作成と早期介入のための研修プログラムの開発、2) 受講者認定制度の開始によるプログラム展開上の質の担保、3) 内閣府ゲートキーパー養成研修テキスト監修と e-learning の基盤体制整備、4) 東日本大震災被災地へのプログラム提供、5) 日本自殺予防学会の学会企画研修プログラムとしての採用、6) 視覚教材の開発、7) 受講者のフォローとして IT の活用、8) 相模原市、島根県、北九州市での先行的取り組み、9) 実施者研修+指導者研修の連続開催に取り組んだ。

具体的には平成 25 年度は、オーストラリアの早期介入の基盤プログラムの「Mental Health First Aid (以下、MHFA)」の日本語版地域展開モデルを開発し、主要領域を「うつ病・自殺」、「不安障害」、「精神病」、「物質関連障害」に設定し、動画教材も制作した。研修会終了後に実務者による「フォーカスグループ会議」を行い、プログラムに反映するなど質の担保に努めた。また、内閣府のゲートキーパー養成研修テキスト第3版を監修し、すでに開発された DVD 視覚教材と対応させた。同プログラムは内閣府自殺対策推進室のHPより視覚教材が視聴可能、かつ全国配布され、テキストのダウンロードが可能となっており、Q&A も設定されており、e-learning の基盤体制が整備されている。

プログラム普及体制のモデルを構築するためパイロット研修として島根県、相模原市で開催し、研修会受講者数は84名であった。地域、民間の人の実施につなげるやり方は、都道府県での普及モデルになると考えられた。研修修了者を指導者として登録するシステムを開始し、全国展開するうえでのプログラム提供の質の確保を行った。

また、本プログラムは東日本大震災の被災

地における住民だけでなく、実務者や勤労者の教育にも活用され、被災地への派遣医師への教育プログラムとしても本プログラムを活用した。被災地においては災害復興において今後もこころのケアの重要度が高く、被災地のメンタルヘルス対策への貢献も高かった。さらに、自殺予防学会での学会企画研修でも本プログラムが活用された。

平成 26 年度は、オーストラリア・メルボルンの MHFA 開発者 Betty Kitchener の下で MHFA 第3版マニュアルに基づきトレーナーとしての研修を受講し、日本での教育方法についての検討や、研修修了者の登録システムの運用について検討した。研修受講後、班員および協力者により日本の文化背景等を考慮し第3版マニュアルの翻訳に着手した。

MHFA の地域展開モデルの開発を目的として、島根県、北九州市にて研修会を開催し、研修受講者数は96名となった。

さらに、新たに統合失調症の視覚教材として家族編と友人編を作成した。

被災地の岩手県では、ゲートキーパー養成プログラムの地域住民、精神保健従事者、勤労者等への提供、岩手県こころのケアセンターにおける地域支援学講座での全県従事者へのファシリテーター研修実施、被災地への派遣医師・看護職への教育プログラム活用を継続的に行った。

平成 27 年度は、本研究では医療従事者および精神保健従事者等を対象として、精神医学的知識・対応技法に関する構造化された教育プログラムの開発を行い、合わせて IT による双方向/自立学習型の教育法の普及方法の確立を目的とした。

具体的には、参加者のニーズ毎、疾患毎に研修内容に対する検討(フォーカスグループ)を重ね、e-learning の活用も踏まえた確立した動画教材、講義資料を作成し、受講者が研修教材を Web から利用可能にするなど研修プログラムを充実化した。オーストラリアで

のマニュアル改訂に際して班員が新プログラムの研修を受講し、日本版の翻訳後、マニュアルの改訂を行った。

教育体系としては日本での資格制度を改訂、実施者研修では部分受講を取り入れ柔軟性をもたせることで受講のしやすさにつながった。一方、指導者研修については、質の担保を維持するため、実地報告とチェックテストにより班員の討議、研究代表者の最終判断による認定法を確立した。その後の受講者へのフォローについては、班員の地域毎に担当することとした。資格制度の改正をふまえ、初の実施者研修と指導者研修を組み合わせた4日間連続開催を実施し、受講者のニーズに幅広く対応した。研修受講者数は161名に達し、本プログラムの普及がうかがえた。

研修の実施地域に岩手県の被災地のメンタルヘルス対策従事者も含め、被災地におけるこのケア対策への還元も行った。

さらに、職域からのニーズに応える研修会を実施し約50名が受講した。職域プログラムを充実させ、実施体制としても管理監督者が受講することで不調者への対応スキルの標準化を図り、実際の事例に対する質疑応答も活発となった。

これまで、精神保健領域において幅広い精神障害の対応を統一的な教育法で提供するプログラムはなかったため、本研究で構築された教育プログラムの現場での有用性があることを本研究によって示した点は、メンタルヘルス対策の普及やスティグマ対策にとって有意義であったと考えられ、今後、地域での5疾患5事業が展開されたときにも活用が期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

大塚耕太郎、遠藤仁、赤平美津子、精神

疾患のファーストエイドの重要性 - 精神科医の立場から -、治療、査読無、98(5)、2016、623-627 .

鈴木友理子、メンタルヘルス・ファーストエイドとは、治療、査読無、98(5)、2016、640-644 .

小原圭司、うつ症状に対するメンタルヘルス・ファーストエイド、治療、査読無、98(5)、2016、646-650 .

藤澤大介、不安症状に対するメンタルヘルス・ファーストエイド、治療、査読無、98(5)、2016、651-655 .

橋本直樹、精神病症状に対すメンタルヘルス・ファーストエイド、治療、査読無、98(5)、2016、656-660 .

長 徹二、物質使用障害に対するメンタルヘルス・ファーストエイド、治療、査読無、98(5)、2016、662-666 .

青山久美、総合診療医が行う、アルコール使用障害診療のファーストエイド、治療、査読無、98(5)、2016、694-698 .

小原圭司、メンタルヘルス・ファーストエイドと、その地域における展開について、公衆衛生情報、査読無、46(1)、2016、20-21 .

Hashimoto N, Suzuki Y, Kato TA, Fujisawa D, Sato R, Aoyama-Uehara K, Fukasawa M, Asakura S, Kusumi I, Otsuka K . Effectiveness of suicide prevention gatekeeper-training for university administrative staff in Japan . Psychiatry Clin Neurosci . 査読有 . 70(1) . 2015 . 62-70 .

DOI: 10.1111/pcn.12358

Otsuka K, Nakamura H, Kudo K, Endo J, Sanjo K, Fukumoto K, Hoshi K, Yagi J, Sakai A . The characteristics of the suicide attempter according to the onset time of the suicidal ideation . Ann Gen Psychiatry . 査読有 . 14 . 2015 .

48 .

DOI: 10.1186/s12991-015-0087-6.

Yoshioka Y, Otsuka K, Takeuchi K, Nakamura H, Endo J, Sanjo K, Umetsu M, Koizumi F, Mizugai A, Onuma Y, Kudo K, Sakai A, Endo S . Consideration on the new psychiatric emergency cases related to the Great East Japan Earthquake .JIMA .査読有 .67(3) .2015 . 101-117 .

Suzuki Y , Kato TA , Sato R , Fujisawa D , Aoyama-Uehara K , Hashimoto N , Yonemoto N , Fukasawa M Otsuka K . Effectiveness of brief suicide management training program for medical residents in Japan : A Cluster randomized trial . Epidemiology and Psychiatric Sciences . 査読無 .23(2) . 2014 . 167-176 .

大塚耕太郎、酒井明夫、遠藤仁、総合病院精神科における自殺予防の役割、臨床精神医学、査読無、2014、43(6)、885-890 .

加藤隆弘、大塚耕太郎、鈴木友理子、藤澤大介、佐藤玲子、青山久美、橋本直樹、鈴木志麻子、神庭重信、私の診療経験から こころの応急対応(メンタルヘルス・ファーストエイド) - 日常臨床現場における、うつ病の早期介入と自殺予防 -、臨床と研究、査読無、91(2)、2014、289-294 .

大塚耕太郎、酒井明夫、中村光、赤平美津子、震災後の自殺対策とゲートキーパーの養成について(After the Great East Japan Earthquake : Suicide prevention and a gatekeeper program)、精神神経学雑誌、査読無、116(3)、2014、196-202 .

大塚耕太郎、酒井明夫、3 . 不安発作(パニック発作) . . 精神科的マイナーエマーゲンシー、Medical Practice、査読無、31(増刊号)、2014、172-174 .

[学会発表](計 4 件)

高尾 碧、鈴木宗幸、永原優理、大久保亮、長 徹二、増田 史、久我弘典、精神疾患の初期対応～メンタルヘルスファーストエイド～、第1回公益財団法人こころのバリアフリー研究会総会、2014.05.10、東京 .

Yuriko Suzuki , Maiko Fukasawa . What is "Kokoro-no care or Mentaru health service and psychosocial support? . The 5th World Congress of Asian Psychiatry . Challenges for Asian Psychiatry , Mental Health Consequences of Disaster . 2015.03.03 - 06 . 福岡市 .

鈴木志麻子、奥亜希子、小林香里、金澤智里、小池尚志、鈴木友理子、大塚耕太郎、メンタルヘルス・ファーストエイドの地域保健事業への活用、第72回日本公衆衛生学会総会、2013.10.24、三重県総合文化センター(津市)

大塚耕太郎、酒井明夫、中村光、赤平美津子、災害後のゲートキーパーのあり方と自殺対策(シンポジウム 18 『災害関連精神医学・医療の展望と課題』)、第109回日本精神神経学会学術総会、2013.05.24、福岡国際会議場(福岡市) .

[図書](計 2 件)

大塚耕太郎、ヌーヴェルヒロカワ、精神看護学 精神保健学第6版 6 . 災害時地域精神保健医療活動 第3章 精神保健と社会、2015、187-197 .

大塚耕太郎、酒井明夫、羊土社、レジデントノート別冊 各科研修シリーズ これだけは知っておきたい精神科の診かた、考え方 第3章 9 適応障害および重度ストレス反応、2014、107-110 .

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

mhfa-japan

<http://mhfa.jp>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大塚 耕太郎 (OTSUKA, kotaro)

岩手医科大学・医学部神経精神科学講座・
講師

研究者番号：00337156

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

鈴木 友理子 (SUZUKI, Yuriko)

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究
センター精神保健研究所成人精神保健研
究部災害等支援研究室・室長

研究者番号：70425693

藤澤 大介 (FUJISAWA, Daisuke)

慶應義塾大学医学部精神・神経科・専任講

師

研究者番号：30327639

橋本 直樹 (HASHIMOTO, Naoki)

北海道大学病院精神科神経科・助教

研究者番号：40615895

加藤 隆弘 (KATO, Takahiro)

九州大学先端融合医療レドックスナビ研
究拠点・特任准教授

研究者番号：70546465

青山 久美 (AOYAMA, Kumi)

横浜市立大学病院・児童精神科・助教

研究者番号：30715199

米本 直裕 (YONEMOTO, Naohiro)

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究
センター精神保健研究所精神薬理研究
部・客員研究員

研究者番号：90435727

【研究協力者】

小原 圭司 (KOBARA, Keiji)

島根県立心と体の相談センター・所長

長 徹二 (CHO, Tetuji)

三重県立こころの医療センター・医長

佐藤 玲子 (SATO, Ryoko)

横浜市立大学医学部精神医学教室・客員研
究員